

所沢市医師会学術講演会

平成26年6月26日（木） 19：30～（本講演は19：40～）

所沢パークホテル

座長 並木病院 院長 赤津 拓彦 先生

講師 埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科 教授 栗田 卓也 先生

「糖尿病の薬物治療 Update」

抄録

糖尿病の薬物療法は、1921年のBantingとBestによるインスリンの発見の翌年に最初のインスリン治療が行われたのを嚆矢とし、1950年代には、経口の糖尿病治療薬としてスルホニル尿素薬とビグアナイド薬が発売され、1970年代にはヒトインスリン製剤が発売された。その後、糖尿病患者の世界的な増加に伴い新薬が次々と開発され、多くの経口薬および注射薬が1990年代以降に続々と発売された。最近では、画期的新薬としてのDPP-4阻害薬、GLP-1受容体作動薬、新規持効型溶解インスリンの登場が記憶に新しいが、今年になり新たな作用機序に基づくSGLT2阻害薬も発売された。さらに、従来のインスリンポンプ（CSII）にリアルタイムCGM（持続血糖モニター）を搭載した機種が日本で発売される予定である。本講演では、めざましく進歩しつつある糖尿病の薬物療法の現状を、その歴史と近未来の展望も含めて、できるだけわかりやすく紹介したい。



